

## A 語句の意味と読み

(1) くり返し復習する・おさらいして身につける。／新しく学ぶことではなく、折にふれてくり返す意

(2) 腹を立てる・うらみに思う。／「愠らず（いからず）」と読む教科書もある。読みはお使いの教科書に合わせる

(3) 言葉を巧みに飾り、顔つきをつくらって人にこびへつらう態度。／「巧言」＝うまい言葉、「令色」＝よく見せた顔つき。学而篇の言葉

(4) 少ない・ほとんどない、の意。現代語の「あざやか」の意ではない。／白文は「鮮矣仁」。「仁がほとんどない」と、口先だけの人を戒めている

(5) 「たづ（ぬ）」と読む。「温（あたた）めて」と読む教科書もあるが、どちらも「くり返し学ぶ」という意味は変わらない。お使いの教科書の読みに合わせる。／「温（あたた）めて」と読む教科書もあるが、「くり返し学ぶ」という意味は同じ

(6) 道理がはっきりせず、ぼんやりして身につかない。／「くらし」＝物事が見通せない状態

(7) あぶない。独断におちいって危険である。／★現代語の「殆ど（ほとんど）」の意ではない。「あやうい」。字の形が似た「怠（おこた）る」とも別

## B 句法

(8) 「なんと～ではないか」と、強い感動・詠嘆をこめて肯定する言い方。／★「喜ばしくない」という単なる否定ではない。「亦楽しからずや」「亦君子ならずや」も同じ形

(9) 白文「從心所欲」では、「所」は下の動詞「欲」を受けて「～すること（もの）」と名詞のはたらきに変える。書き下すと「欲する所」と上下が入れかわり、上の連体形を受ける形になる。「心の欲する所」＝「心が望むこと」。／白文は「所欲」、書き下しは「欲する所」と、「所」と動詞の上下が入れかわる

(10) 「～することができる」(可能)。ここは「人の師となる

ことができる」の意。／白文「可以為師矣」の「可」にあたる

(11) 未然形（「聞か」）に接続し、順接の仮定条件「もし～たら」を表す。／★已然形+ば（～ので）との区別が頻出

(12) 反語。「どうして他人によるだろうか、いや、他人によるのではない（自分しだいだ）」。「～んや」で結ぶ形。直前の「仁を為すは己に由る」を強めている

(13) 禁止。「～してはならない」の意。／「勿れ」と送る教科書もあるが、禁止という用法は同じ。「無・莫・毋」も同じく禁止に使われる

## C 主語・指す内容

(14) すでに学んだこと（先生から教わった内容）。／直前の「学びて」を受けている

(15) 人として守るべき道德のきまり・道理の枠。／もとは大工の使う「さしがね（ものさし）」

(16) 孔子が、弟子の顔淵の「仁とは何か」という問いに答えた言葉。

(17) 自分以外の他人。／直前の「己（自分）」と対になっている

## D 口語訳

(18) 学んで、折にふれてそれをくり返し復習する。なんと喜ばしいことではないか。

(19) 心の思うままにふるまっても、道德のきまりを踏みはずすことがない。／「ども」は逆接（～けれども・～しても）。だから「思うままにふるまっても、それでも道を外さない」となる。「従ひて」と読む教科書でも訳は同じでよい

(20) 朝に人として正しい道（真理）を聞いて悟ることができたなら、その日の夕方に死んでもかまわない。

(21) 君子は道義（正しい筋道）をよくわきまえ、小人は利益（目先の損得）をよくわきまえている。／「喩る（さとる）」＝よく理解している・通じている

## E 内容・記述

(22) 学ぶだけでは身につかず、考えるだけでは危うい。両方が必要だということ。(三十五字) / 「罔し＝身につかない」「殆ふし＝危うい」の二つを両方入れるのが採点の要

(23) 孔子が十五歳で学問を志してから七十歳に至るまでの、年齢を追った精神的成長の歩みを述べたもの。 / 十五歳＝志学、三十歳＝而立、四十歳＝不惑、五十歳＝知命、六十歳＝耳順、七十歳＝従心。年齢の呼び名としても問われる

(24) 地位や才能ではなく、何を判断の基準に置くか（義を取るか利を取るか）によって人物を見分けようとしている。

(25) 礼にはずれたことは、見ない・聞かない・言わない・行わない、という四つ。

## F 文学史・思想

(26) 孔子とその弟子たちの言行を記録した書物。孔子自身が書いたものではなく、孔子の死後に弟子たちがまとめた。儒教の根本経典「四書」の一つ。 / ★「作者は孔子」と答えるのは誤り。「学而」「為政」などの篇名は、各篇の最初の章の書き出しから二字を取ったもの（「子曰」は数えない。学而＝「学びて時に…」、為政＝「政を為すに徳を以てす」）。八佾篇のように書き出しの途中の語を取る例もある

(27) 温故知新（今の読み方で「おんこちしん」） / 昔の学問や事柄をよく学び直し、そこから新しい道理や知識を見いだすこと / 為政篇。

(28) 克己復礼（今の読み方で「こっきふくれい」） / 顔淵篇。

### 【現代語訳（全文）】

【学而篇】先生（孔子）がおっしゃった。「学んで、折にふれてそれをくり返し復習する。なんと喜ばしいことではないか。同じ志を持つ友がいて、遠くから訪ねて来てくれる。なんと楽しいことではないか。人が自分を認めてくれなくても腹を立てない。それこそ立派な人物（君子）ではないか。」と。

【学而篇】先生がおっしゃった。「言葉を巧みに飾り、顔つきをつくろって人にこびへつらう者には、思いやりの心（仁）がほとんどない。」と。

【為政篇】先生がおっしゃった。「私は十五歳で学問を志した。三十歳で（学問の基礎ができて）独り立ちした。四十歳で（あれこれ）迷わなくなった。五十歳で天から与えられた使命を悟った。六十歳で人の言葉を素直に聞き入れられるようになった。七十歳になると、心の思うままにふるまっても、道徳のきまりを踏みはずすことがなくなった。」と。

【為政篇】先生がおっしゃった。「昔の学問や事柄をよく学び直して、そこから新しい道理や知識を知ることができれば、人の師となることができる。」と。

【為政篇】先生がおっしゃった。「人から学ぶだけで自分で考えなければ、物事の道理がはつきりせず身につかない。逆に、自分で考えるだけで人から学ばなければ、独断におちいって危険である。」と。

【里仁篇】先生がおっしゃった。「朝に人として生きるべき正しい道（真理）を聞いて悟ることができたなら、その日の夕方に死んでもかまわない。」と。

【里仁篇】先生がおっしゃった。「君子は道義（正しい筋道）をよくわきまえ、小人は利益（目先の損得）をよくわきまえている。」と。

【顔淵篇】顔淵が仁について尋ねた。先生がおっしゃった。「自分の欲に打ち勝って礼（社会の正しいきまり）に立ち返ること、それが仁である。一日でも自分に打ち勝って礼に立ち返れば、世の中の人々はその仁徳になびき従うようになる。仁を行うかどうかは自分自身による。どうして他人によるものであろうか、いや、自分しだいである。」と。顔淵が言った。「どうか、その具体的な項目をお聞かせください。」と。先生がおっしゃった。「礼にはずれたことは見てはならない、礼にはずれたことは聞いてはならない、礼にはずれたことは言ってはならない、礼にはずれたことは行ってはならない。」と。